

2012年度「日本女性学習財団賞」
受賞レポート決定！！

—2012年度「日本女性学習財団賞」受賞レポート報告会



学びがひろく

2012年度「日本女性学習財団賞」大賞・奨励賞が決まりました！（他2篇に選考委員特別賞）
贈呈式、受賞者と選考委員によるパネル・ディスカッションを行います。受賞レポート
に興味のある方、来年は書いてみよう！と思われる方、ぜひご参加ください！

※日本女性学習財団賞とは、男女共同参画社会実現のために社会・地域・家庭の中でさまざまな困難や
課題を乗り越えてきた過程をふり返った実践研究レポートを広く募集し、優秀作を表彰するものです。

2013年2月16日（土）

午後1時30分～4時

会 場：日本女子会館 5F 大会議室
（東京都港区芝公園2-6-8）

定 員：30人（先着順）

参加費：1,000円

I 贈呈式

【大賞】介護とわたし—体験・知識・思いの共有がつくりだす未来へ 松崎実穂さん（東京都）

【奨励賞】母子家庭からみた、社会のいびつさ 井上由美さん（北海道）

日本社会の発展を担った「乗り合いバスの女車掌」 多賀多津子さん（福岡県）

—選考委員特別賞—

「来て、感じて、伝えてほしい…放射能汚染の中で生きのびるために」 磯部幸江さん（埼玉県）

女性歌人にみる戦争と平和 前川幸士さん（京都府）

II 講演「心を揺さぶる作品 -女性史・ジェンダーの視点から-

講 師：平井和子 女性史研究者 選考委員

III パネル・ディスカッション「学びがひろく」

パネリスト：日本女性学習財団賞大賞・奨励賞受賞者

足立則夫 ジャーナリスト 選考委員長

大島英樹 立正大学准教授 選考委員

辻 智子 東海大学課程資格教育センター特任講師 選考委員

コーディネーター：平井和子

お申込み・お問合せ

公益財団法人 **日本女性学習財団**

〒105-0011 東京都港区芝公園 2-6-8 日本女子会館 5F

TEL: 03-3434-7575 FAX: 03-3434-8082

E-mail: jawe@nifty.com http://www.jawe2011.jp

日本女性学習財団賞 大賞 松崎実穂さん（東京都）

＜介護とわたしー体験・知識・思いの共有が作りだす未来へ＞

介護という「わたしの体験」を語れなかったわたしが、さまざまな学びと出会いを通じ、この体験を介護者支援の仕事の中で、また研究者として、社会で活かしてゆく道を歩み始めるまでの過程を記した。

1章では介護体験をふり返り、2章では自らが感じた家族介護の問題点について述べた。3章では介護体験が人生選択に及ぼした影響と、その後のわたしの人生をふり返る。わたしは進学した先で行っていた介護研究を挫折し就職したが、キャリアカウンセリングを学び、自らの過去の体験を捉え直すきっかけを得た。4章では、仕事として介護に再び向き合った場での介護経験者たちとの出会いと、介護体験を共有することの意味を述べた。また、再度研究者として介護に取り組む機会を得、改めて自らの介護経験と研究者としての視点から言えることを述べた。

最後に、現在の活動と今後の展望についてふれる。

奨励賞 井上由美さん（北海道）

＜母子家庭からみた、社会のいびつさ＞

母子家庭になって初めて気づいたことがたくさんある。イクメンという言葉がもてはやされる現代でも、ほとんどの人が子育てでは母親の役目だと疑いなく考えているということ。いまだに根深い母子家庭に対する偏見や不利益。母親ひとりが子どものしつけや教育、障がいまで全責任を背負わせられる重圧。そして社会の仕組みが生み出す母子世帯の貧困…。

親の経済力で子どもの将来が大きく左右される現状を変えるにはどうしたらいいのか。子育てを家庭だけに押しつけず、社会全体で後押しできるような制度とはどういうものか。一つひとつ私自身の経験から考え、導き出した答えを整理して提示する。

また、生き方の選択肢が多様化しているにもかかわらず、女がしあわせになれないのはなぜかを考察。立場の違いを超えて女同士が連帯することの大切さを訴える。

奨励賞 多賀多津子さん（福岡県）

＜日本社会の発展を担った「乗り合いバスの女車掌」（理不尽のなかで）＞

昭和30年代の終わりごろまで、日本中で見られた「乗り合いバスの女車掌」。「発車オーライ」のかけ声とともに働く若い女性たちはバスガールとも呼ばれ、人々に親しまれた職業であった。しかし、その厳しい労働実態を知る人は少ない。15歳でその職に就いた私は、当時の女性蔑視に翻弄されながら働いた。その会社のバスは、ほとんどが観光地を走るため、路線バスでありながら、名所旧跡へ差し掛かると切符を切りながらマイクを握りガイドも務めた事から「ガイドガール」とも呼ばれる特殊な職業でもあった。見習いの時、「気が効かない」との理由から途中で置き去りにされたり、またある時は深夜の峠道でぬかるみにはまって身動きがとれなくなったバスを引き上げてもらうために、どしゃ降りの雨の山道を駆け下りて電話を探したり。現在では考えられない乗務体験は、古い因習との闘いでもあり、ひたすら前を向いて進んだ青春の一ページでもある。

FAX：03-3434-8082（FAXでのお申込みにご利用ください。※ホームページからもできます。）

公益財団法人日本女性学習財団 宛

パネルフォーラム「学びがひらく」参加申込書

ふりがな		年代
氏名		
住所	〒 _____ TEL (_____) FAX (_____) e-mail (_____)	
所属等		